

# 米国分散投資戦略ファンド

## (1倍コース/3倍コース/5倍コース)

追加型投信／海外／資産複合

愛称:

# USブレイン1/USブレイン3/USブレイン5

バランスファンドはリスクも低いリターンも低いと思いませんか？

## 従来とは異なる新しい バランスファンドの登場です。

リスクを抑えた安定志向の **1倍コース**

レバレッジ(てこの原理)を効かせた利益追求型の **3倍コース**、**5倍コース**

お客様のニーズにお応えする3つのコースをご用意しました。

お申込みの際は、「投資信託説明書(交付目論見書)」等を必ずご覧ください。

■投資信託説明書(交付目論見書)の  
ご請求・お申込み

■資料の作成、設定・運用

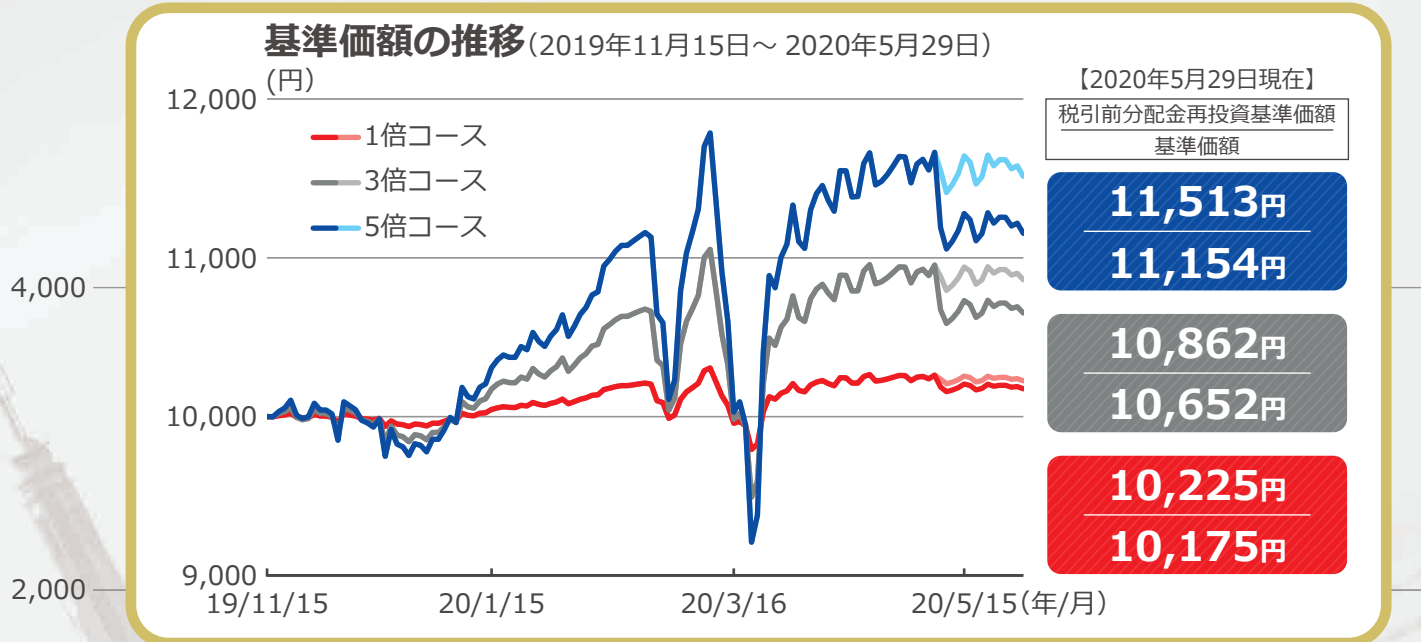
**GB** ぐんぎん証券

**三井住友DSアセットマネジメント**

商号等：ぐんぎん証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2938号  
加入協会：日本証券業協会

三井住友DSアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

(ポイント) **当戦略\* および当ファンドの各コースの推移(円ヘッジベース)** (1999年12月末～2020年



(注1) 基準価額、税引前分配金再投資基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後です。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果および分配を保証するものではありません。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。

詳しくは最終ページおよび投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※1999年12月末を100として指数化



\* 当ファンドが採用する戦略で、最小リスクでの運用を目的に設計されたAIを利用したTCWアセット・マネジメント・

**主要指数と各コースの年間騰落率の比較** (2000年～2020年)

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
米国リート 27.6%	<b>5倍コース</b> 16.5%	<b>5倍コース</b> 54.6%	<b>5倍コース</b> 42.5%	米国リート 31.2%	金 18.0%	米国リート 35.5%	金 31.0%	<b>5倍コース</b> 35.0%	米国リート 30.8%	<b>5倍コース</b> 61.0%
米国国債 14.9%	米国リート 11.7%	<b>3倍コース</b> 30.1%	米国リート 36.9%	<b>5倍コース</b> 18.9%	米国リート 9.6%	金 23.0%	<b>5倍コース</b> 18.8%	<b>3倍コース</b> 22.0%	米国株式 26.5%	<b>3倍コース</b> 33.2%
<b>5倍コース</b> 3.2%	<b>3倍コース</b> 9.7%	金 24.7%	米国株式 28.7%	<b>3倍コース</b> 11.5%	<b>5倍コース</b> 7.3%	米国株式 15.8%	<b>3倍コース</b> 11.2%	米国国債 20.1%	金 25.5%	金 29.1%
<b>3倍コース</b> 2.7%	米国国債 4.3%	米国国債 14.6%	<b>3倍コース</b> 23.9%	米国株式 10.9%	米国株式 4.9%	<b>5倍コース</b> 3.7%	米国国債 9.8%	<b>1倍コース</b> 7.4%	<b>5倍コース</b> 23.4%	米国リート 26.9%
<b>1倍コース</b> 0.7%	<b>1倍コース</b> 2.6%	<b>1倍コース</b> 8.7%	金 19.3%	金 5.5%	<b>3倍コース</b> 4.1%	<b>3倍コース</b> 2.2%	米国株式 5.5%	金 5.1%	<b>3倍コース</b> 14.4%	米国株式 15.1%
金 -5.5%	金 2.5%	米国リート 3.6%	<b>1倍コース</b> 6.9%	米国国債 4.8%	米国国債 2.0%	米国国債 1.4%	<b>1倍コース</b> 3.5%	米国株式 -37.0%	<b>1倍コース</b> 4.5%	<b>1倍コース</b> 9.6%
米国株式 -9.1%	米国株式 -11.9%	米国株式 -22.1%	米国国債 1.3%	<b>1倍コース</b> 3.2%	<b>1倍コース</b> 0.7%	<b>1倍コース</b> 0.3%	米国リート -18.1%	米国リート -40.1%	米国国債 -9.7%	米国国債 7.9%

(注1) 上記は1999年12月末から2019年10月末までは月次データ、2019年11月1日から2020年5月29日までは日次データより算出。2019

(注2) 当戦略のバックテストで使用した指数は最終ページをご参照ください。

(注3) 米国株式はS&P500トータルリターン、米国国債はICE BofAML米国10年国債、米国リートはDow Jones 米国リートトータルリターン  
当ファンドのベンチマークではありません。

(注4) 騰落率は各年末比較、2020年は5月末値。

(注5) ファンドの設定日は2019年11月15日です。ファンドの実績(推移)および騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。騰落率  
(出所) Bloomberg, TCW, ICE Data Indices, LLCのデータを基に委託会社作成

※設定日までは過去のデータを基にTCWが行ったバックテストの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、当ファンドの将来  
経費は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

※レバレッジ効果により、常にプラスとなるわけではありません。マイナスのリターンとして大きく影響することがあります。先物の値動き

※実際の運用においては市況動向によって、1倍コース/3倍コース/5倍コースにおける実質的な投資額が、それぞれ純資産総額の概ね同

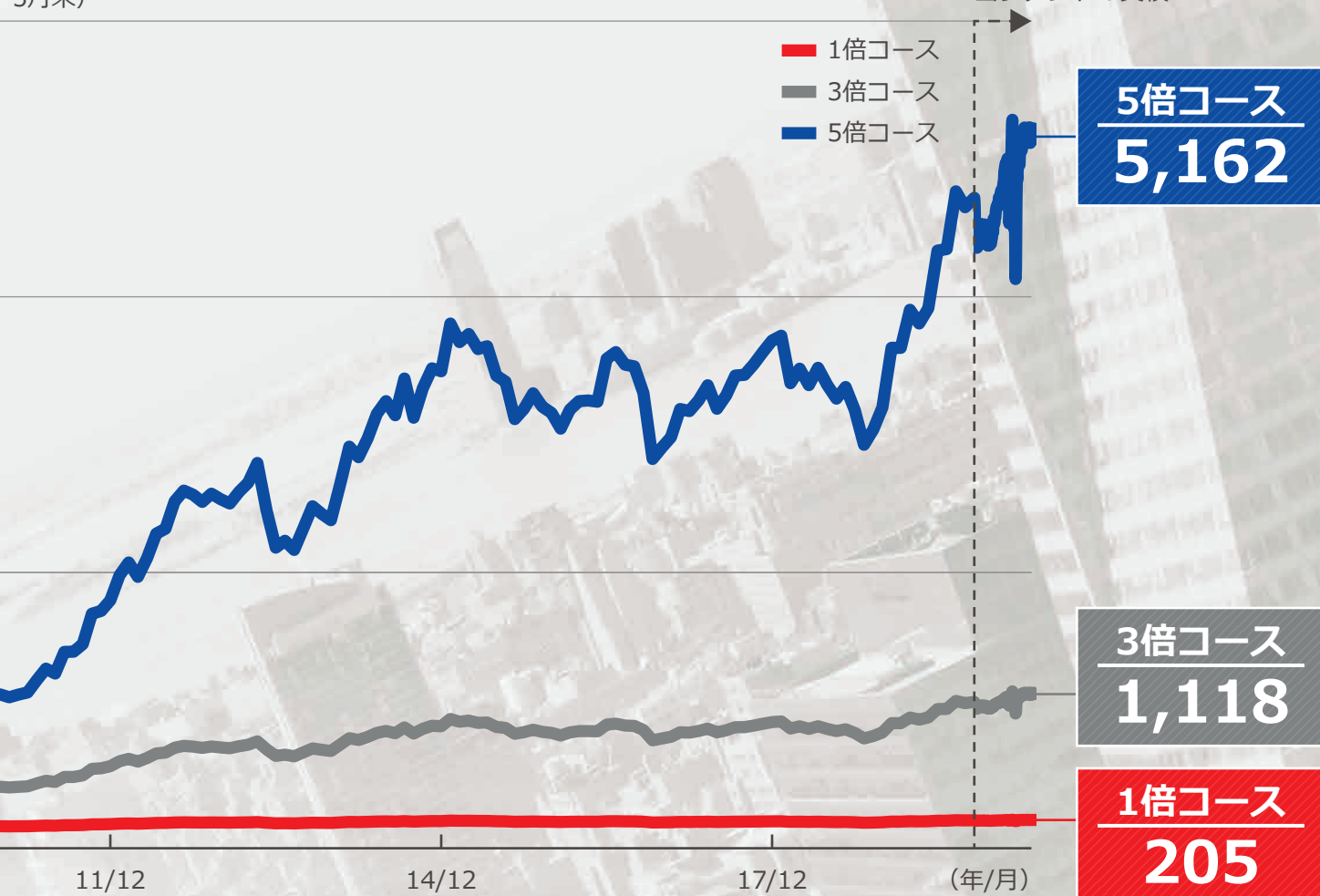
※実質的な投資対象とする指数または証券は、将来的に追加・変更となる場合があります。また、短期金融商品等に投資する場合があります。



この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

5月末)

当ファンドの実績



カンパニー・エルエルシー(以下、TCW)独自の資産アロケーション戦略。

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
5倍コース 61.2%	5倍コース 40.8%	米国株式 32.4%	5倍コース 45.4%	米国リート 2.1%	米国株式 12.0%	5倍コース 26.7%	米国国債 0.0%	5倍コース 40.1%	5倍コース 15.2%
3倍コース 33.4%	3倍コース 22.8%	米国リート 1.8%	米国リート 27.2%	米国株式 1.4%	金 8.6%	米国株式 21.8%	金 -1.9%	米国株式 31.5%	金 13.8%
米国国債 17.2%	米国リート 18.9%	1倍コース -1.6%	3倍コース 25.4%	米国国債 0.9%	米国リート 7.6%	3倍コース 14.9%	1倍コース -3.5%	米国リート 28.9%	米国国債 12.7%
金 11.1%	米国株式 16.0%	3倍コース -3.5%	米国株式 13.7%	1倍コース -2.4%	米国国債 -0.2%	金 13.3%	米国リート -4.0%	3倍コース 22.4%	3倍コース 8.8%
1倍コース 9.6%	1倍コース 6.6%	5倍コース -6.0%	米国国債 10.7%	3倍コース -5.4%	1倍コース -2.3%	米国リート 9.8%	米国株式 -4.4%	金 18.8%	1倍コース 2.4%
米国リート 6.0%	金 6.3%	米国国債 -7.8%	1倍コース 7.3%	5倍コース -8.7%	3倍コース -4.8%	1倍コース 4.0%	3倍コース -8.3%	米国国債 8.9%	米国株式 -5.0%
米国株式 2.1%	米国国債 4.2%	金 -28.1%	金 -1.4%	金 -10.6%	5倍コース -8.0%	米国国債 2.1%	5倍コース -13.2%	1倍コース 6.3%	米国リート -15.9%

年11月14日までは当戦略のバックテスト、2019年11月15日(設定日)以降は当ファンドの運用実績を基に算出。

ン、金は金米ドルスポット価格。いずれも米ドルベース。当戦略の各コースは円ヘッジベース信託報酬控除後。各指数はいずれも

は実際の投資家利回りとは異なります。

の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。バックテストは一定の前提条件に基づくものであり、信託報酬以外の

により、現物のみに投資する場合と比較して、ファンドの利益または損失の幅が拡大します。

等額/概ね3倍相当額/概ね5倍相当額を大きく下回る場合があります。

# 長期投資を視野に、「下落を抑える運用」を目指す

当ファンドは、レバレッジを効かせた3倍コース、5倍コースも設定しているため、下落リスクを強く意識した運用を行っています。1倍コースのパフォーマンスは他の資産と比較して安定的に推移しています。

## 当戦略および当ファンド(1倍コース)と主要指数の推移 (1999年12月末～2020年5月末)



(注1) 上記は1999年12月末から2019年10月末までは月次データ、2019年11月1日から2020年5月29日までは日次データより算出。2019年11月14日までは当戦略のバックテスト、2019年11月15日(設定日)以降は当ファンドの運用実績(税引前分配金再投資基準価額)を基に算出。

(注2) 当戦略のバックテストで使用した指数は最終ページをご参照ください。

(注3) 世界株式はMSCI AC ワールドインデックス、世界債券はFTSE世界国債インデックス、日本株式はTOPIX、日本債券はFTSE日本国債インデックス。いずれも当ファンドのベンチマークではありません。株式は配当込み。当戦略は信託報酬控除後。

(出所) Bloomberg、TCW、ICE Data Indices、LLCのデータを基に委託会社作成

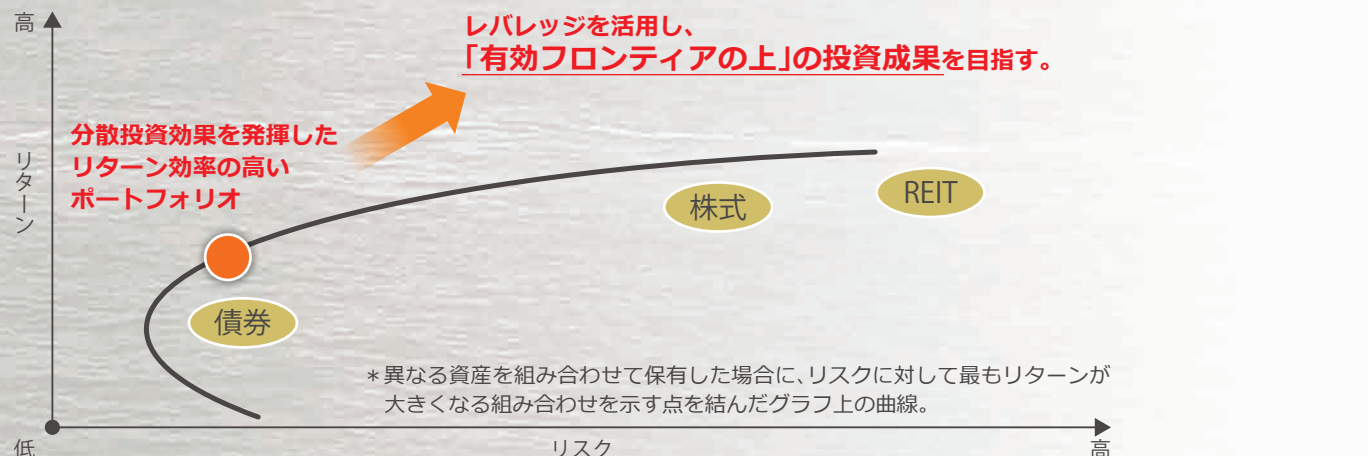
※設定日までは過去のデータを基にTCWを行ったバックテストの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。バックテストは一定の前提条件に基づくものであり、信託報酬以外の経費は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは最終ページおよび投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

※実際の運用においては市況動向によって、1倍コース/3倍コース/5倍コースにおける実質的な投資額が、それぞれ純資産総額の概ね同等額/概ね3倍相当額/概ね5倍相当額を大きく下回る場合があります。

## レバレッジを効かせて「有効フロンティア\*の上」の投資成果を目指す

3倍コース、5倍コースでは、バランス・ファンドの“高い投資効率”を維持しつつ運用にレバレッジを活用することで、株式や債券、リート等の組み合わせだけでは達成できない「有効フロンティアの上」の投資成果を目指します。



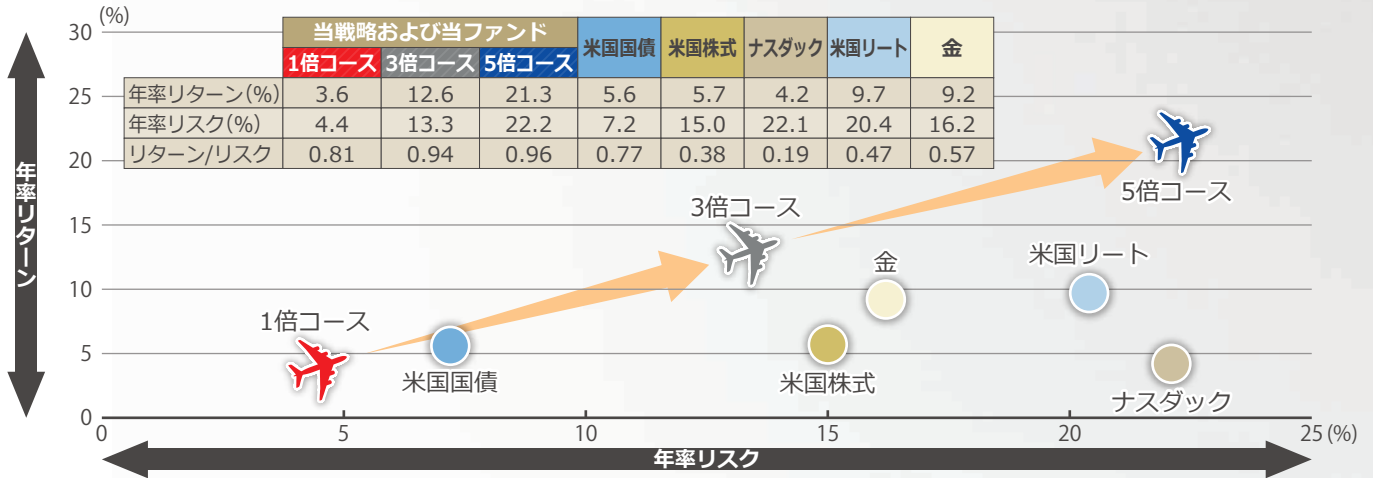
※レバレッジ効果により常に有効フロンティアの上を実現できるわけではありません。マイナスリターンとして有効フロンティアの下になる場合もあります。

※上記はイメージであり、実際と異なる場合があります。将来の運用状況・成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

# 3倍、5倍だと値動きが大きそうで不安・・・

下落リスクを抑えた1倍コースと比較して、レバレッジを効かせる3倍、5倍コースの値動きは決して小さくありません。しかしながら、レバレッジの活用により、同程度のリスク水準の資産と比較して、高いリターン結果となりました。

## 当戦略および当ファンドの各コースと主要指標のリスク・リターン特性 (1999年12月末～2020年5月末)



## 約20年間のバックテストでは・・・(1999年12月末～2020年5月末)

**1倍**

安全資産とされる米国国債よりも低いリスク

**3倍**

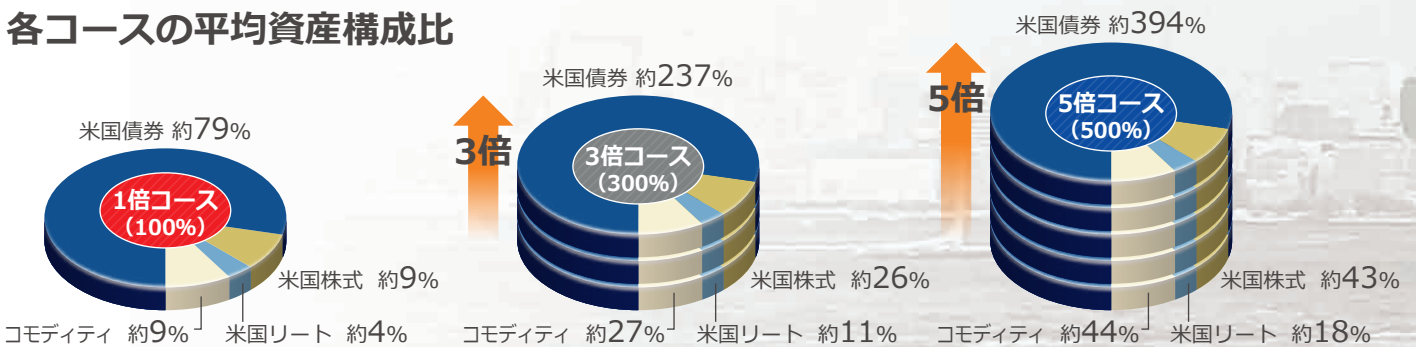
過去20年間で約3倍となった米国のS&P500と比較して、低いリスクで高いリターン

**5倍**

米国成長企業がけん引するNASDAQと比較して、同程度のリスクで5倍以上のリターン

1倍コース、3倍コース、5倍コースともに米国債券が中心のポートフォリオになっています。

## 各コースの平均資産構成比



(注1) 上記は2019年10月末までは当戦略のバックテストのデータで算出、2019年11月末以降は当ファンドの運用実績(税引前分配金再投資基準価額)で算出。

(注2) 当戦略のバックテストで使用した指数は最終ページをご参照ください。

(注3) 米国株式はS&P500トータルリターン、ナスダックはナスダック総合指数、米国国債はICE BofAML米国10年国債、米国リートはDow Jones米国リートトータルリターン、金は金米ドルスポット価格。いずれも米ドルベース。当戦略の各コースは円ヘッジベース、信託報酬控除後。各指数はいずれも当ファンドのベンチマークではありません。

(注4) 年率リターンは当該期間の累積リターンを年率換算、年率リスクは月次リターンの標準偏差を年率換算。

(注5) 円グラフは四捨五入の関係で合計が100%(300%、500%)にならない場合があります。

(出所) Bloomberg, TCW, ICE Data Indices, LLCのデータを基に委託会社作成

※設定日までは過去のデータを基にTCWが行ったバックテストの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。バックテストは一定の前提条件に基づくものであり、信託報酬以外の経費は考慮されていません。実際の運用においては、市場動向等の諸条件が異なることによりパフォーマンス等は大きく異なります。

※レバレッジ効果により、常にプラスとなるわけではありません。マイナスのリターンとして大きく影響することがあります。先物の値動きにより、現物のように投資する場合と比較して、ファンドの利益または損失の幅が拡大します。

※実際の運用においては市場動向によって、1倍コース/3倍コース/5倍コースにおける実質的な投資額が、それぞれ純資産総額の概ね同等額/概ね3倍相当額/概ね5倍相当額を大きく下回る場合があります。

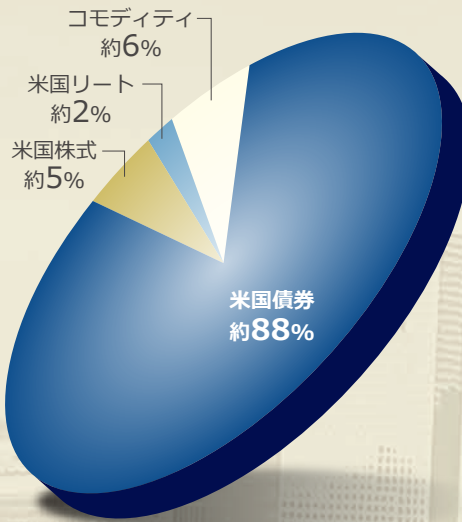
※実質的な投資対象とする指数または証券は、将来的に追加・変更となる場合があります。また、短期金融商品等に投資する場合があります。

運用効率の追求と下落リスク抑制の3つのポイント  
 当ファンドは、レバレッジを効かせた3倍、5倍のリターンを目指す  
 リスクを抑えるポイントは、**1.リスクオフの局面では相対的に強い  
 した機動的なアロケーション**、の3点です。

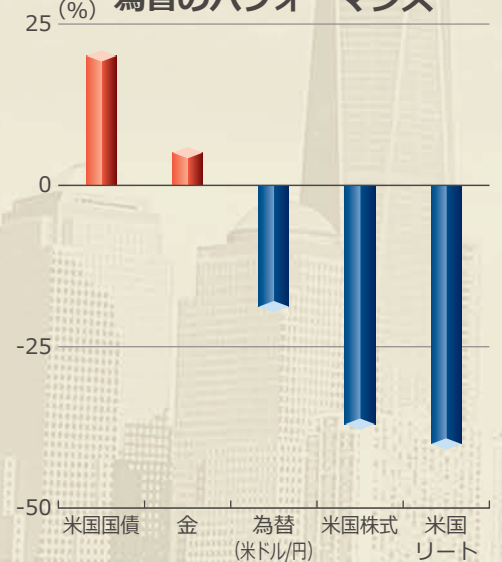
# 1 金融危機に相対的に強い「米国債券」

当ファンドの組入れは米国債券が中心となっており、1999年末からの平均で約8割、リーマンショックがあった2008年は平均で約9割を占めました。  
 マーケットがリスク回避的になる際には「質への逃避」から米国国債が買われる傾向にあり、金融危機には相対的に優位な資産と言えます。  
 また、金融危機の際には円高が進む傾向にあることから、先物を活用していることで為替リスクが限定的になっている点もポイントです。

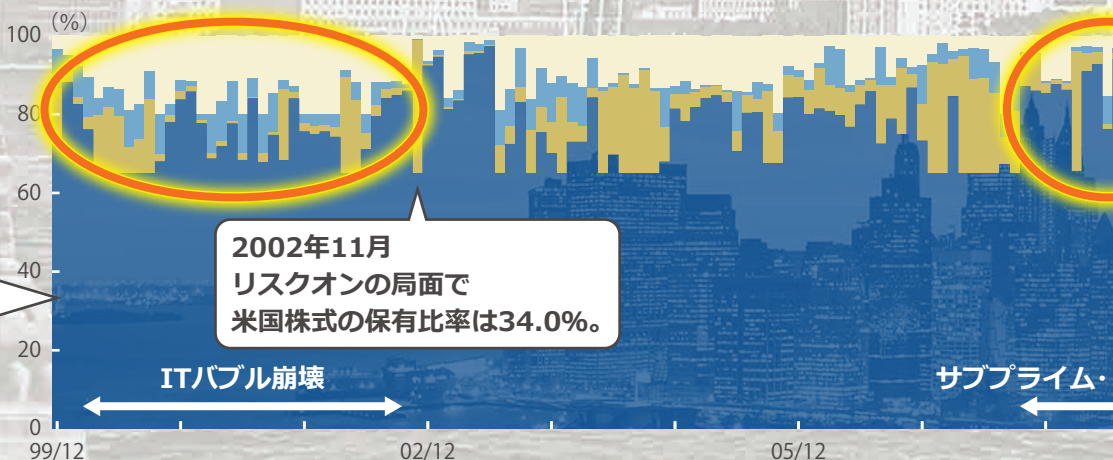
当戦略の資産構成比  
 (2008年平均)



2008年の各資産および  
 為替のパフォーマンス



当戦略および当ファンドのポートフォリオの推移(1倍コース)(1999年)



(注1) 上記は2019年10月末までは当戦略のバックテストのデータ、2019年11月末以降は当ファンドの運用実績。  
 (注2) 当戦略のバックテストで使用した指数は最終ページをご参照ください。  
 (注3) 円グラフの数値は四捨五入の関係上、合計が100%とならない場合があります。  
 (注4) 米国株式はS&P500トータルリターン、米国国債はICE BofAML米国10年国債、米国リートはDow Jones米国(出所) Bloomberg, ICE Data Indices, LLC, TCWのデータを基に委託会社作成

※設定日までは過去のデータを基にTCWが行ったバックテストの結果であり、当ファンドの運用実績ではありません  
 ※実際の運用においては市場動向によって、1倍コース/3倍コース/5倍コースにおける実質的な投資額が、それ  
 ※実質的な投資対象とする指数または証券は、将来的に追加・変更となる場合があります。また、短期金融商品等に投

# ント

コースを設定していることから、下落リスクを極力抑制した運用を目指します。

**「米国債券」を中心に資産配分、2.値動きの異なる資産へ分散投資、3.AI(人工知能)を活用**

## 2 値動きの異なる資産の組み合わせ

一般的に、債券は株式と比較して高いリターンは期待できないものの、リスクは低い傾向にあります。当ファンドは米国債券を中心に投資しつつ、値動きの異なる米国株式や米国リート、金などのコモディティにも投資することで、リスクの分散を図っています。

各指数の相関係数  
(1999年12月末～2020年5月末)

	米国株式	米国国債	米国リート	金
米国株式	1.00			
米国国債	-0.34	1.00		
米国リート	0.64	-0.06	1.00	
金	0.02	0.26	0.12	1.00

1に近づくと同じ動きをする傾向。値動きの異なる複数の資産を組み合わせることが重要

## 3 AIを活用した機動的なアロケーション

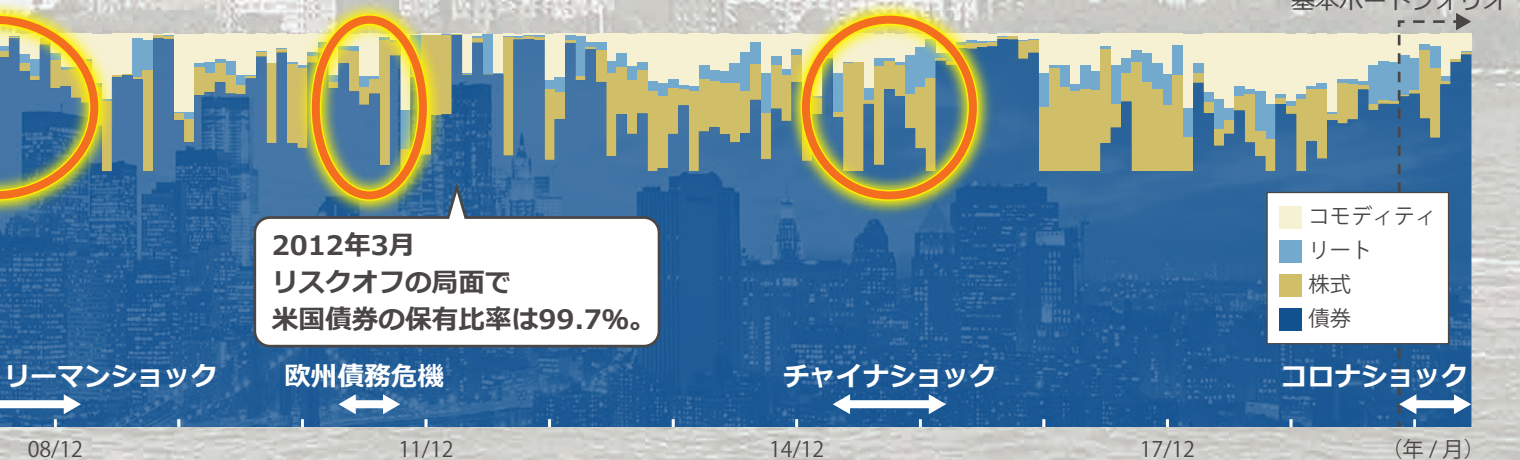
バランスファンドで最も重要なのは、資産の保有割合を決めるアセットアロケーションです。当ファンドでは、最先端のAIによる機械学習を活用し、20年以上のマクロとインデックスのデータを蓄積し、過去の膨大な学習データから現在のデータが過去のどの局面の特徴やパターンに近いかを判断し、資産配分を決定します。



各資産のアロケーション(%)  
(1999年12月末～2020年5月末)

	1倍コース		
	平均	最大	最少
米国債券	78.9	99.7	65.0
米国株式	8.6	34.0	0.2
米国リート	3.6	10.0	0.03
コモディティ	8.9	20.0	0.1

12月末～2020年5月末)



2012年3月  
リスクオフの局面で  
米国債券の保有比率は99.7%。

リートトータル リターン、金は金米ドルスポット価格。いずれも米ドルベース。当戦略の各コースは円ヘッジベース信託報酬控除後。

せん。また、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。それ純資産総額の概ね同等額/概ね3倍相当額/概ね5倍相当額を大きく下回る場合があります。資する場合があります。

## ファンドのリスク(詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

### [基準価額の変動要因]

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。基準価額の主な変動要因として、○レバレッジに関するリスク(3倍コース・5倍コース)、○株価変動に伴うリスク、○金利変動に伴うリスク、○信用リスク、○為替リスク、○流動性リスク、○不動産投資信託(リート)投資のリスク、○資産担保証券投資のリスク、○商品市況の価額変動に伴うリスク等があります。

## お申込みメモ(詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

購入・換金の申込受付日	原則として、申込不可日を除きいつでも購入・換金のお申込みができます。	購入単位	お申込みの販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。		
申込不可日	以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。 ●ニューヨークの取引所の休業日 ●ニューヨークの銀行の休業日		
決算および分配	年2回(毎年5月および11月の10日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、配分方針に基づき分配を行います。 ※委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。		
信託期間	2029年11月12日まで(2019年11月15日設定)		
繰上償還	当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券が存続しないこととなったときは、繰上償還します。また、以下の場合には、繰上償還をすることがあります。 ●繰上償還をすることが受益者のため有利であると認めるとき ●各ファンドの残存口数が30億口を下回るようになったとき ●その他やむを得ない事情が発生したとき		
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」、未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA(ニーサ)」の適用対象です。なお、販売会社によっては、NISA、ジュニアNISAでの取扱い対象としない場合があります。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 ※上記は作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、変更される場合があります。		

## ファンドの費用(詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

### ①投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に <b>3.3%(税抜き3.0%)を上限</b> として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。	信託財産留保額	ありません。
--------	---	---------	--------

### ②投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	ファンドの純資産総額に <b>年1.1825%(税抜き1.075%)</b> の率を乗じた額 ※投資対象とする投資信託の信託報酬等を含めた場合、1倍コースは <b>年1.3225%(税抜き1.215%)程度<sup>*1*2</sup></b> 、3倍コースは <b>年1.6025%(税抜き1.495%)程度<sup>*1*2</sup></b> 、5倍コースは <b>年1.8825%(税抜き1.775%)程度<sup>*1*2</sup></b> となります。 *1 当ファンドが投資対象とする投資信託の管理報酬等には関係法人により下限金額が設定されているものがあり、ファンドの純資産総額等によっては、年率換算で上記の料率を上回る場合があります。 *2 各ファンドの外国投資信託証券の組入比率に応じた実質的な運用管理費用(信託報酬)の概算値です。実際の外国投資信託証券の組入比率によっては、実際の実質的な信託報酬率は変動します。
その他の費用・手数料	以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。 ●監査法人等に支払われるファンドの監査費用 ●有価証券の売買時に発生する売買委託手数料 ●資産を外国で保管する場合の費用 等 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 委託会社、その他の関係法人

委託会社	三井住友DSアセットマネジメント株式会社(ファンドの運用の指図等を行います。)
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理等を行います。)
販売会社	委託会社にお問い合わせください。(ファンドの募集・販売の取扱い等を行います。)

当戦略のバックテストで使用した指数は次の通りです。株式:S&P500トータルリターン、NASDAQ100トータルリターン、債券:ICE BofAML米国10年国債、Bloomberg Barclays ジニーメイ30年トータルリターン、リート:Dow Jones 米国リートトータルリターン、商品:Bloomberg商品、S&P GSCI ゴールド(エクセスリターン)、Bloomberg商品、S&P GSCIゴールド(エクセスリターン)以外は米国短期金利(3ヵ月)を控除した先物理論価格を使用。

### 《重要な注意事項》

■当資料は三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■投資信託は、値動きのある証券(外国証券には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。■投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。■当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)および目論見書補完書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、当資料に投資信託説明書(交付目論見書)と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書(交付目論見書)が優先します。投資信託説明書(交付目論見書)、目論見書補完書面等は販売会社にご請求ください。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。